

第3回 健康寿命をのばそう！アワード (生活習慣病予防分野)

企業・団体・自治体等の名称： 熊本市

取組・活動名： 全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちを目指して
～ネットワークで守る市民の腎臓そらまめ～

取組アクション： 適度な運動 適切な食生活 禁煙 健診・検診受診 ○ その他 CKD(慢性腎臓病)対策

プロジェクトウェブサイトURL: http://www.city.kumamoto.jp/hpKiji/pub/detail.aspx?c_id=5&id=4852&class_set_id=3&class_id=563

取組・事業の概要と特徴:

【事業概要】

本市は人工透析者の割合が全国的にみて高い水準にあったため、市民のQOLの維持・悪化防止の観点から、新規人工透析患者の減少を目指し、CKD(慢性腎臓病)の予防から悪化防止までCKDの全ての段階に応じた総合的な対策として、以下の4本柱で実施している。

①啓発・早期発見

啓発イベント等の開催や健診受診勧奨の実施。

②発症予防・進行抑制

熊本市国民健康保険の特定健診の結果、腎機能中等度低下者を対象としたCKD予防教室等の実施、くまもと減塩美食の取組み、ICTを活用した健康づくり支援等。

③悪化防止

CKD病診連携医登録制度の創設・運用、かかりつけ医と栄養士との栄養連携システムを構築。

④推進体制の整備

CKD対策推進会議(88団体・機関で構成)等を開催し、各関係団体等が連携して本対策に取り組んでいる。

【特徴】

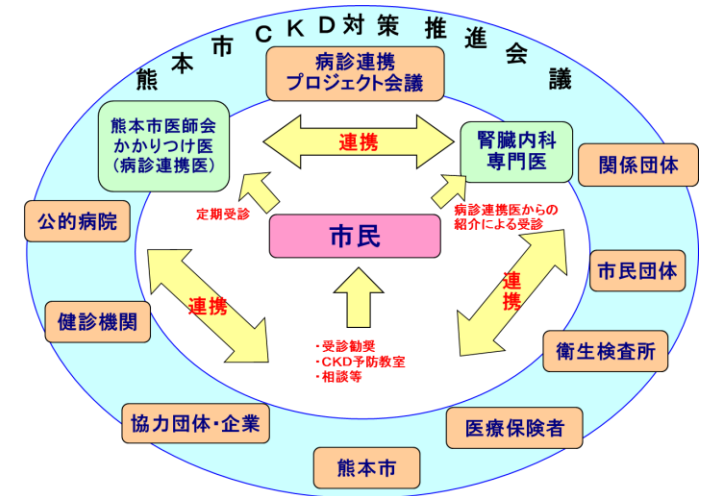
本対策は、CKDという比較的新しい病気概念を市民へ啓発し、早期発見から進行抑制、悪化防止まで総合的な対策を実施しているところに特徴がある。また、公的医療機関、熊本市医師会、腎臓内科専門医、専門団体、保険者、健診機関、ボランティア団体、検査所、協力企業、広報大使、行政といった88の関係機関・団体が、それぞれの立場での取り組みやお互いに連携してCKD対策に取り組むことで、新規人工透析導入者数の減少や透析導入の平均年齢の上昇といった成果が現れている。

【成果】

新規人工透析導入者がH21年度295人からH25年度260人に減少し、透析導入の平均年齢がH21年度66.74歳がH25年度68.69歳に1.95歳上昇した。

本対策ではCKDの各々の段階に応じた総合的な対策を行い、透析治療への移行を遅延・回避することで、日常生活が制限されることなく暮らすことができる期間の延伸につながっている。また、腎機能低下による血圧上昇からさらに腎機能が悪化するといった悪循環に陥ることを防ぎ、脳卒中、心筋梗塞、心不全等の合併症の発症・進行を遅らせることにつながっている。

取組・事業の概要がわかる写真や図:
【全体図】



【病診連携システム図】

CKD病診連携システムの構築

